

2022年7月27日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

中枢神経系転移に対する強度変調回転法を用いた高精度エックス線照射の治療成績に関する臨床的検討と線量分布改善に関する基礎的検討

2. 研究責任者

JA 愛知厚生連 海南病院 放射線治療科（放射線診療科） 大宝和博

3. 研究の概要

当院では平成28年9月のリニアック装置更新に伴い脳転移（1-2病変）に対する定位照射（主に1回照射）や全脳照射（左右対向2門照射）を施行してきましたが、奏功率・局所制御率と安全性の向上のため、令和3年1月より照射方法、線量分布を変更しました。定位照射については10病変程度まで適応を拡大し、強度変調回転法（VMAT, volumetric-modulated arc therapy）の線量勾配最適化法（治療計画方法）と照射ビーム（アーク）配置法など照射方法を変更し、複数病変を同時に照射する方法を採用しました。また、全例分割照射として病変体積・局在に応じた柔軟な線量分割で施行してきました。多発転移例や髄液腔播種例に対する全脳照射、全脊髄腔照射では、VMATによる標的線量分布の改善と中枢神経外正常組織の線量軽減をはかっています。今回、短期ながらこれまでの治療例について、その治療効果（奏功度、神経症状の改善度、維持期間、再増大の有無など）と安全性（痙攣・浮腫悪化・出血誘発など急性期の有害事象と脳壊死など晩期放射線障害の発症頻度）を見直し、他施設の一般的な治療成績と比較した上で、治療内容の改善の余地について再考することが重要と考えられます。そこで、当院にて最近1年半の間に治療を行った症例の短期治療成績について後方視的に検討する事としました。

また、これまで治療を行った症例について、さらに線量分布や治療時間を改善する余地について、ビーム配置法、強度変調最適化法など複数の選択肢について比較検討し、より適した照射法を追求することも重要と考えられます。そこで、匿名化した画像データに基づき、実際の腫瘍やモデル球体を対象に複数の治療計画を立案し比較する基礎的な検討を行う事としました。

4. 研究方法

①対象となる患者さん

中枢神経以外の腫瘍性疾患から中枢神経系（脳、脊髄、頭蓋底、脳脊髄液腔）に転移を生じた方のうち 2021 年 1 月から 2022 年 6 月までに強度変調回転法を用いた高精度エックス線照射（定位放射線照射、全脳照射、全脊髄照射）を施行した方

②使用する試料等

残余検体：（追加検査等はいりません）

カルテ情報：具体的には年齢、性別、診断名、画像検査結果、血液検査結果、病理検査結果、治療に関する情報（放射線治療計画内容、治療中やその前後に行った手術療法・薬物療法内容）など。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会（研究会や講演会を含む）や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 放射線治療科 大宝（おおたから）和博
電話：0567-65-2511（代表）

7. その他

本研究は科研費（文部科学省および日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業）の助成を受けています（研究課題番号: 21K07561、研究課題名: 転移性脳腫瘍の病態に適合した物理的・生物学的原体性の高い高精度光子線照射法の確立、<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K07561/>）。